

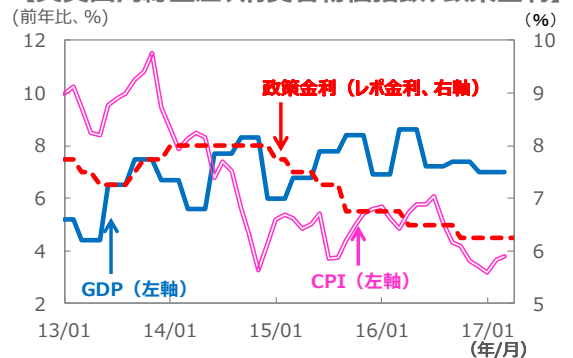
今日のトピック インドの経済・市場動向（2017年4月）

景気回復や落ち着いたインフレなどにより株式・債券とも堅調推移

ポイント1 景気は安定成長、インフレは鈍化 個人消費が景気を牽引

- インド経済は高成長が続いています。2016年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.0%となり、高額紙幣廃止による個人消費への影響は限定的だったことが示されました。
- また、消費者物価は、降雨量が少なかった影響で高騰していた食品価格が鈍化してきたことで、インド準備銀行（中央銀行、以下RBI）の目標中心値である+4%を下回ってきました。インフレは今後も落ち着いた推移が見込まれます。

【実質国内総生産、消費者物価指数、政策金利】

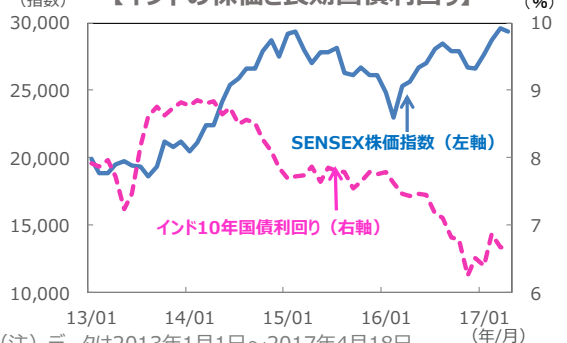


(注) データは2013年1月1日～2017年4月18日。GDPは2013年4-6月期～2016年10-12月期。GDPとCPIは前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 株式・債券とも堅調推移 金融政策や政治の安定などが支えに

- 金融政策については、インフレの鈍化を受け、RBIは15年1月から利下げを行ってきました。今後の政策金利は当面据え置きが見込まれます。また、今年は2月から3月にかけての地方選挙でモディ首相が率いる与党が大勝しました。これで7月に予定されている物品サービス税（GST）導入の可能性が高くなり、税金の簡素化や企業の税務コスト削減につながると考えられます。
- このような環境下で、インド株式、インド国債ともに特に2014年に入ってから概ね堅調な展開となりました。

【インドの株価と長期国債利回り】



(注) データは2013年1月1日～2017年4月18日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 株式、債券ともに堅調な展開を予想

- インドは、もともと13億人程度の巨大な人口を擁する国として注目されています。また、当面は上述の通り、景気回復や落ち着いたインフレ環境、そして税制改革進捗、さらには企業業績回復への期待などから、資金がインド株式に流入しやすい環境にあると見られます。
- インド債券については、利下げ後も相対的に見て国債の利回りは魅力的な水準にあり、海外の投資家などからの資金流入が引き続き見込まれます。ただし、RBIが過剰流動性を抑制するため引き締め方向の金融政策に動く可能性があり、その際は国債利回りの一時的な上昇に注意が必要です。

ここも
チェック! 2017年4月 7日 インドの金融政策（2017年4月）
2017年3月15日 最近の指標から見るインド経済（2017年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。